

民主慎重派ヤマ場に奔走

問題点を洗い出し

TPP交渉参加問題をめぐり民主党内の推進派と慎重派は9日も激しい論戦を繰り広げた。最終的な決着は野田佳彦首相の判断次第となるが、慎重派の農林議員が全品目の10年以内の関税撤廃にとどまらず、医療や食の安全など幅広い分野の規制緩和を対象とするTPPの問題点を洗い出しに奔走した。この背景には、「地方や国民生活への危機感」（農林幹部）がある。（一面参照）

拙速なTPP交渉参加表明に反対する取り組みを主導したのは「TPPを慎重に考える会」会長の山田正彦前農相。同会は独自に勉強会を重ね、政府がいまいにしてい

た国民皆保険や独占禁止法で適用除外となつている新聞や雑誌の再販制度への影響を追及し、TPP交渉で「議論の対象になる可能性を排除できない」ことなどを明らかにした。

党経済連携プロジェクトチーム（PT、鉢呂吉雄座長）では、2009年の衆院選で初当選した福島伸亨氏（茨城）や山岡達丸氏（比例北海道）、玉木雄一郎氏（香川）、空本誠喜氏（広島）、中後淳氏（比例南関東）、高橋英行氏（比例四国）、川村秀三郎氏（宮崎）、中野渡詔子氏（比例東北）、京野公子氏（秋田）、石山敬貴氏（宮城）ら新人議員が、岡田克也前幹事長や直嶋

正行元経済産業相ら推進派の大物にも論戦を挑み、推進論の根拠を一つずつ崩した。

推進派の反撃には、篠原孝前農水副大臣、川内博史氏（鹿児島）、首藤信彦氏（神奈川）、舟山康江元農水政務官、佐々木隆博元農水政務官ら中堅議員らが対抗し、小平忠正衆院議運委員長ら重鎮も支え役に回った。

ただ、TPPをめぐる推進派と慎重派の攻防は終結していない。党PT役員会が長時間の調整作業を経て「参加に慎重な意見が多数を占めた。これを踏まえて政府が判断することを提言する」とする提言案をまとめた8



民主党経済連携PT総会冒頭であいさつする鉢呂座長（9日、東京・永田町の衆議院第2会館で）

日の夜、山田前農相は「明日から、また戦いだ」と述べ、推進派の巻き返しに備えて気を引き締めた。

山田前農相の懸念は的中し、慎重な対応を求めた提言をまとめたのにもかかわらず、翌9日には「野田首相、交渉参加表明へ」の報道が流れた。推進派が早速、反撃に転

じた結果だった。野田首相が、12日からのアジア太平洋経済協力会議（APEC）首脳会議でTPP交渉についてどういう発言をするかは不透明だ。ただ、国論を二分したTPP交渉参加問題について、推進派と慎重派の溝は埋まってい

ない。ある農林幹部は「野田閣東協議会（宮地良平会

首相は「国民の生活が第一」を掲げた民主党の2009年衆院選マニフェスト（政権公約）の理念を守ると訴えて党代表に選ばれ、党内融和を掲げて政権を船出させた。TPP問題は政権の正統性を問う試金石となる」と指摘する。

○：27日
に投票票がある大阪府知事選と大阪市長選に



農業用水施設整備予算確保を農相に農水関連協
国営農業水利事業促進
関東協議会（宮地良平会